

委員会の動き

○総務産業建設常任委員会

四万十町庁舎建設に係るプロセスおよび庁舎視察

総務産業建設常任委員長 佐藤 徳治

平成26年8月25日に四万十町庁舎建設に係るプロセスおよび庁舎の視察を行った。



四万十町議会議員との情報交換会(四万十町議会議室)

完成した役場本庁舎は、合併後の大型プロジェクトとして町民の期待も大きく、位置の決定や建物等についても町民代表からなる検討委員会や議会内部でも精力的に議論をしている。西庁舎と東庁舎を線路上空の自由通路で連絡とした庁舎は全国でも珍しく、また使用した木材はすべてが町有林を間伐したヒノキ材である。

町村合併後、四万十町は新庁舎の建設を住民の意見や幅広い専門的知識を反映させた検討を行うため、新庁舎建設調査審議委員会を発足させ、住民参加型のワークショップを用いて、新庁舎建設における基本的枠組みの作成を行った後に、基本設計を行っているのが大きな特徴である。

このワークショップの持つ利点は、①情報が公開される。②学習効果が高い。③新しい見方や考え方が生まれる。④イメージや考え方が共有されることよっての合意形成。⑤行政と住民とのパートナーシップが図られることである。

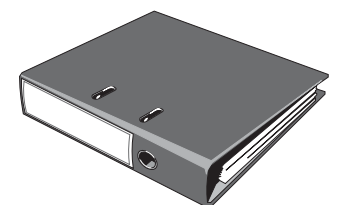
ワークショップのまとめとして、「災害時に頼りになる庁舎であってほしい」、「住民が気軽に集まれるコミュニケーション機能がほしい」、「使い勝手の良い機能的な庁舎にしてほしい」、町のシンボルとなり、「誇れる庁舎であってほしい」、「バリアフリーの機能を充実させてほしい」ということである。

庁舎を見学するとまさにこのまとめのとおりで、ゆとりあるスペースと災害時には関係機関が宿泊できる部屋も完備されるなどワークショップの声が活かされている庁舎である。

本町の庁舎は、昭和43年3月25日に竣工されてから、築47年余りを経過し老朽化に加え、災害時に頼りになる庁舎であるか、バリアフリーの機能が充実しているかなど、さまざまな問題点を包括している。このため庁舎建設調査審議委員会等を設置し、住民参加型のワークショップを通し、新庁舎建設の基本的枠組みの作成を早急に行い基本設計、着工と具体的に年次計画を立てるよう望む。

陳 情

町道和田線と和田大森^{すし}司圖子線との連絡道の開設
提出者 和田区長 原 快仁
(賛成者・全員)



○全国森林環境税創設促進議員連盟第21回定期総会開催

7月17日大分県日田市で、第21回定期総会が開催され、本議員連盟副会長の今井安博議員が出席した。この議員連盟は平成6年に設立し、現在全国326市町村が加盟している。

森林は地球温暖化の防止や国土の保全、水源のかん養などの公益的機能をもっている。こうした機能は、山村地域の市町村による森林の整備・保全によって維持する必要があるが、危機的な市町村財源の状況から、恒久的・安定的な財源が大幅に不足している。

このため、市町村の新たな税財源として「全国森林環境税」の創設を悲願として活動を続けている。

○四国土砂防災ネットワーク議員連盟第14回定期総会開催

8月18日徳島県三好市で、第14回定期総会が開催され、本議員連盟副会長の都築正光議長が出席した。この議員連盟は平成13年に設立し、現在44市町村が加盟している。

国土保全は国の重要な責務であるとの認識のもと、国が直轄事業に限らず、あらゆる防災事業を積極的に展開し、責任を持って土砂災害の多発地帯である四国各地域の生命・財産を土砂災害から守り、地域発展の確固たる礎を築くため、国会および政府に対しての要望活動や国土保全に関する調査などの活動を続けている。

編集後記

空に広がる雲を見ると、秋の訪れを感じるこの頃、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。最近はいつになく集中豪雨が発生し、自然の厳しさを再認識させられます。

さて、私が大豊町中学校柔道部を指導し始めて4年が経ち、1期生が10月に引退します。厳しい練習にも耐え抜き、1期生に続き2期生も全員黒帯を取り、3年間で優秀な成績も残せました。

指導する中で、強さを求めるのももちろんですが、中学校を卒業後、進学し社会人になっても通用する礼儀作法も重点的に指導してきました。遠征練習に行くに慣れない環境の大人数に圧倒され、挨拶もできない状態でしたが、時が経つにつれて、それまかなりできるようになりました。卒業生には、今後学び続けることを望み、前途に栄光あらんことをお祈りします。



柔道部3年生(右端小川智也議員)

記 小川 智也

広報編集特別委員会

委員長 三谷幸一郎
副委員長 小川 智也
委員 前野 由和
委員 佐藤 徳治
委員 都築 正光

【ご意見やご感想は】

大豊町議会事務局

電話 72-0450 (代表) まで